

校長室だより

国立市立国立第七小学校長 森田弘文

平成25年11月5日 NO.25

みんなでもほり会！

11月1日（金）。秋晴れの空のもと、今日は待ちに待った1・2年生による『いもほり会』です。5月16日に植えた50本のサツマイモの苗が、約半年間の間、太陽の光と天からの雨と、大地の栄養をたっぷりもらい、大きく大きく育ちました。子ども達の大きくなあれ！たくさんあれ！という願いがきっと届いたのでしょう。

まず、国立市前農業委員長の関さんからの話をいただき、その後、よーいドン！で一斉にいもほりを開始しました。自分の顔よりも大きなサツマイモを掘り起こしては、子ども達は大喜びで、嬉々とした声が聞こえてきました。

それから、収穫して学校に持ち帰ったおいもを山分けしました。ジャンケンで順番を決めては、より大きないもを探そうと手に取り、にっこりとした笑顔いっぱいの子供達でした。残念ながら一人一個ということにはならず、中には半分の子供ももいたようです。今年度はやや狭い土地であったので、来年度はより広くたくさんの苗を植えて育てていこうと考えています。おうちでおいしく召し上がってください。



農業体験を終えて

今年度の国立第七小学校の農業体験を振り返り、校長として大変嬉しく思います。まず、国立市農業委員、JA職員、市農業振興課の方々の応援を得て、様々な活動ができたことは、とても素晴らしい事と感じております（5年生の稲作作りを含め）。

地域の方とこのように触れあい、共に作業し過ごした経験は、子ども達にとってとても貴重であり、地域を知る良い機会であったと思います。このような経験は、子ども達が地域に愛着を持つ事に通じることでしょう。また、学校前にこのような肥沃な農地を提供してくれた北島様にも感謝の気持ちでいっぱいです。これだけの広い耕地を無料で自由に使わせて頂けることも、大きな喜びと感じております。さらに、今年度のこの農業活動は、JAのアグリサポート事業という後援を得ており、肥料や苗代、耕地の除草シートからマルチシートに至るまで財政面でも援助して頂いたことも感謝しております。

全くの素人の自分にとっては試行錯誤の連続でした。日毎に成長するトマトやキュウリの枝欠き作業で、そのやり方すらよく分からない中、丁寧にご教示して頂き一緒に作業を手伝ってくれた関さん。サツマイモの苗を植え方まで指導してくれたJA職員の方。本当にありがとうございました。

全ては子ども達のためという思いでやってきた農業体験活動。夏の日、採れたての瑞々しいキュウリを頬張る笑顔の子ども達。美味しそうにトウモロコシにかぶりつく子ども達。大きなサツマイモにびっくり顔の子ども達。これからもそんな姿をたくさん見たいと思っています。

今、畑は農業委員さんたちにより除草シートやマルチも撤去され、サツマイモ収穫後の畑も早速うねって頂きとても静かで、来春の子ども達の活動を待っているようです。

